

トランスジェンダー生徒と学校

日時 2025年11月28日（金）13：00～14：30

場所 千里山キャンパス 尚文館 1階 マルチメディアAV大教室

講師 土肥 いつき （非常勤研究員）

トランスジェンダー生徒が学校の中でさまざまな困難に直面していることは、これまでに多くの実践報告やルポルタージュ、あるいは研究を通して明らかにされてきた。しかしながら、その多くは「困難」に焦点化したものや、困難の所在をトランスジェンダー生徒の「身体と心の食い違いⁱ」に求めるものだった。

一方、筆者は2006年からトランスジェンダーの児童生徒が集まる交流会を開催してきた。参加者の中には、たしかに不登校状態にある子どももいる。しかしながら、交流会の場面では楽しそうにしている。そのような子どもたちの姿を見るにつれ、学校生活における困難の所在は校則などの制度や教員の側にあることを痛切に感じるようになった。また、自認する性別での学校生活を実現した参加者もいる。しかしながら、これまでトランスジェンダー生徒の困難を学校の制度との関係で分析したものや、性別移行の実践過程を分析したものはなかった。

そこで本発表では2014年に筆者が行った10人のトランスジェンダーの若者に対する学校生活についてのインタビューデータを用いて、トランスジェンダー生徒が感じるジェンダー葛藤ⁱⁱと、その軽減のために行う性別移行をめぐる実践について、教育社会学のジェンダー研究において明らかにされてきた知見を参照しながら述べることにする。

文献

土肥いつき, 2025, 『トランスジェンダー生徒と学校 「抱えさせられる」 困難と性別移行をめぐる実践』 生活書院。

- i 本来は「出生時に割り当てられた性別と性自認・性表現・性役割が非同調的」とすべき。
- ii 出生時に割り当てられた性別へと水路づけられる強制力と性自認に従った学校生活を送りたいという欲求の間で生まれる葛藤。

* * *

●聴講無料（定員200名／先着順）＜事前申込制＞

人権問題研究室ホームページ トップページ (<https://www.kansai-u.ac.jp/hrs/>) にある「新着情報」内の本講座案内ページの申込フォームから事前に受講申込をしてください。定員になり次第、受付を終了します。

空席がある場合に限り、事前申込をされていなくても聴講は可能です（当日会場にて参加受付を行います）。ただし、なるべく事前申込を行ってください。

* 手話通訳や介助者同伴等が必要な場合は、11月6日（木）までに人権問題研究室へご連絡ください。



主催 関西大学人権問題研究室

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35 阪急千里線「関大前」駅下車

Tel 06-6368-1182 Fax 06-6368-0081

e-mail: jinkenken@ml.kandai.jp

ホームページ: <https://www.kansai-u.ac.jp/hrs/>



「新着情報」をご参照ください